

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1592200024		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ佐渡かないグループホーム		
所在地	新潟県佐渡市吉井本郷字新町144-1		
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhlw.go.jp/15/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=1592200024-00&amp;PrEfCd=15&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhlw.go.jp/15/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=1592200024-00&amp;PrEfCd=15&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県介護福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2		
訪問調査日	平成30年3月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成19年2月に開所し、今年で11年目を迎えました。基本理念は「お客様の心身の安定を図る」としており、この基本理念を基に毎年事業所スローガンを決めて(平成29年度はお互いが傍らに居続けることに感謝し合えるホームを目指す)、取り組んでおります。お客様・従業員・会社としてもお互いに感謝できることを目指しました。また、お客様の「尊厳の保持」及び「自立支援」の考え方を常に意識し、ご本人ならびにご家族が安心して日常を過ごせるように継続的に努めています。当事業所は佐渡市の中央部に位置し、島内外からアクセスしやすい環境にあります。また島内のグループホームと友好的な関係を築いており、平成29年度からは認知症カフェに参加するなど地域交流に努めています。さどひまわりネットに加入しており、ご利用者全員の登録やシステム運用を実践していることで、医療関係からも高い評価をいただいています。そして看取りケアの実践を行うことで、職員はケアの自覚と技術の向上に努めました。協力医や看護師と連携を行うことで、お客様本位のサービスが提供できるように取り組んでいます。また、共用型(介護予防)認知症対応型通所介護事業も実施しており、関係機関との連携や交流の機会を確保し、地域のニーズに応えることができるよう取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## ○ぬくもりのある環境と外出支援について

事業所は佐渡市の中央に位置しており、そびえ立つ金北山を背にした自然豊かで交通の便がよい環境である。四季折々の外出支援を多く取り入れており、利用者の生活に潤いが生れている。外出の場所によって、一人ひとりの懐かしい思い出話しが聞かれ、事業所内では見られない表情が写真という記録に残され、利用者の満足感が感じられる。

## ○地域との交流活動について

今年は10年の節目として、事業所とデイサービス協賛でお祭りを地域へ情報発信した。文化祭への出品協力や地域の行事、清掃活動等、地域の中に溶け込み関係構築が図られている。また認知症カフェ「ほのぼのカフェ」への参加や職員は事業所内で「認知症サポーター養成講座」を受講するなど、認知症の理解を深めると共に専門職としての立場を自覚することができている。今後は地域のニーズを把握した上で、地域の方々への養成講座となるよう前向きに検討している。佐渡市内には5事業所でのグループホーム協議会有り、積極的な情報交換から各事業所のサービス向上にプラスの影響を与えており、今後の活動に期待されるものとなっている。

## ○ネットを活用した医療機関との連携

平成29年度より、本人・家族の了解を得て、医療介護連携システム「さどひまわりネット」に加入し、利用者全員が登録されており、一人ひとりの利用前の受診経過等が把握できるようになっている。利用者のその後の受診支援に活用されている。また、協力医師(内科)は、ほとんどの利用者がかかりつけ医となっており、定期的に往診が受けられるようになっている。家族や身元引受人が遠方にいる場合等、依頼を受けて職員が専門医への受診支援を行うことが多いが、その際は受診後の結果報告を必要に応じて行い、情報が共有されている。重度化や終末期支援についても、本人・家族の意向に沿った対応が出来るよう協力医師と看護師が連携し、状態の変化に迅速な対応が出来る体制が整っている。